

2019年度（令和元年度）

決算報告

自2019年4月1日
至2020年3月31日



目 次

1. 貸 借 対 照 表	1
2. 貸 借 対 照 表 内 訳 表	2
3. 正 味 財 産 増 減 計 算 書	3
4. 正 味 財 産 増 減 計 算 書 内 訳 表	4
5. キャッシュ・フロー計算書	5
6. 財 務 諸 表 に 対 す る 注 記	6 ~ 10
7. 附 属 明 細 書	11
8. 財 産 目 録	12 ~ 13

監 査 報 告 書

1. 独 立 監 査 人 の 監 査 報 告 書	14 ~ 16
2. 監 査 報 告 書	17

貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	222,333,152	246,465,886	▲24,132,734
未収金	349,597,579	221,650,242	127,947,337
未収利息	20,370,327	19,916,237	454,090
貯蔵品	408,960	450,108	▲41,148
前渡金	45,475,901	56,181,524	▲10,705,623
前払費用	2,887,440	3,485,191	▲597,751
立替金	11,025	12,000	▲975
流動資産合計	641,084,384	548,161,188	92,923,196
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	1,531,552,889	1,531,552,889	-
普通預金	447,111	447,111	-
基本財産合計	1,532,000,000	1,532,000,000	-
(2) 特定資産			
建物	450,413,997	460,135,160	▲9,721,163
構築物	28,490,135	30,234,426	▲1,744,291
建物付属設備	68,164,771	74,354,558	▲6,189,787
什器備品	24,826,583	32,107,609	▲7,281,026
投資有価証券	7,001,510,717	7,001,321,290	189,427
関連会社株式	682,250,000	682,250,000	-
普通預金	217,522,397	245,990,661	▲28,468,264
特定資産合計	8,473,178,600	8,526,393,704	▲53,215,104
(3) その他固定資産			
建物付属設備	23,937,191	26,099,377	▲2,162,186
什器備品	7,641,834	8,320,206	▲678,372
商標権	653,735	807,555	▲153,820
差入保証金	8,757,143	8,908,143	▲151,000
出資金	62,734,479	62,546,812	187,667
その他固定資産合計	103,724,382	106,682,093	▲2,957,711
固定資産合計	10,108,902,982	10,165,075,797	▲56,172,815
資産合計	10,749,987,366	10,713,236,985	36,750,381
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	77,828,909	85,346,140	▲7,517,231
預り金	49,009,224	4,681,842	44,327,382
未払利息	471,737	311,298	160,439
賞与引当金	25,637,100	28,408,900	▲2,771,800
未払法人税等	70,000	70,000	-
未払消費税等	12,607,600	292,500	12,315,100
流動負債合計	165,624,570	119,110,680	46,513,890
2. 固定負債			
職員預り金	58,226,279	57,254,403	971,876
退職給付引当金	91,591,960	80,442,680	11,149,280
役員退職慰労引当金	49,075,850	33,960,850	15,115,000
固定負債合計	198,894,089	171,657,933	27,236,156
負債合計	364,518,659	290,768,613	73,750,046
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	30,000	30,000	-
指定正味財産合計	30,000	30,000	-
(うち基本財産への充当額)	(30,000)	(30,000)	-
(うち特定資産への充当額)	(-)	(-)	-
2. 一般正味財産	10,385,438,707	10,422,438,372	▲36,999,665
(うち基本財産への充当額)	(1,531,970,000)	(1,531,970,000)	(-)
(うち特定資産への充当額)	(8,473,178,600)	(8,526,393,704)	(▲53,215,104)
正味財産合計	10,385,468,707	10,422,468,372	▲36,999,665
負債及び正味財産合計	10,749,987,366	10,713,236,985	36,750,381

貸借対照表内訳表

(2020年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
	公1	収1			
I. 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金			222,333,152		222,333,152
未収金	346,665,074	2,932,505			349,597,579
内部貸付金		7,333,229	766,753,519	▲774,086,748	-
未収利息	19,805,945		564,382		20,370,327
貯蔵品	408,960				408,960
前渡金	45,475,901				45,475,901
前払費用			2,887,440		2,887,440
立替金			11,025		11,025
流動資産合計	412,355,880	10,265,734	992,549,518	▲774,086,748	641,084,384
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
土地	1,531,552,889				1,531,552,889
普通預金	447,111				447,111
基本財産合計	1,532,000,000				1,532,000,000
(2) 特定資産					
建物	450,413,997				450,413,997
構築物	28,490,135				28,490,135
建物附属設備	68,164,771				68,164,771
什器備品	24,826,583				24,826,583
投資有価証券	3,501,662,717		3,499,848,000		7,001,510,717
関連会社株式	682,250,000				682,250,000
普通預金	217,370,397		152,000		217,522,397
特定資産合計	4,973,178,600		3,500,000,000		8,473,178,600
(3) その他固定資産					
建物附属設備			23,937,191		23,937,191
什器備品			7,641,834		7,641,834
商標権			653,735		653,735
差入保証金			8,757,143		8,757,143
出資金			62,734,479		62,734,479
その他固定資産合計			103,724,382		103,724,382
固定資産合計	6,505,178,600		3,603,724,382		10,108,902,982
資産合計	6,917,534,480	10,265,734	4,596,273,900	▲774,086,748	10,749,987,366
II. 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	72,780,791	984,218	4,063,900		77,828,909
内部借入金	774,086,748			▲774,086,748	-
預り金			49,009,224		49,009,224
未払利息			471,737		471,737
賞与引当金			25,637,100		25,637,100
未払法人税等			70,000		70,000
未払消費税等			12,607,600		12,607,600
流動負債合計	846,867,539	984,218	91,859,561	▲774,086,748	165,624,570
2. 固定負債					
職員預り金			58,226,279		58,226,279
退職給付引当金			91,591,960		91,591,960
役員退職慰労引当金			49,075,850		49,075,850
固定負債合計			198,894,089		198,894,089
負債合計	846,867,539	984,218	290,753,650	▲774,086,748	364,518,659
III. 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
寄付金	30,000				30,000
指定正味財産合計	30,000				30,000
(うち基本財産への充当額)	(30,000)				(30,000)
(うち特定資産への充当額)	(-)				(-)
2. 一般正味財産	6,070,636,941	9,281,516	4,305,520,250		10,385,438,707
(うち基本財産への充当額)	(1,531,970,000)	(-)	(-)		(1,531,970,000)
(うち特定資産への充当額)	(4,973,178,600)	(-)	(3,500,000,000)		(8,473,178,600)
正味財産合計	6,070,666,941	9,281,516	4,305,520,250		10,385,468,707
負債及び正味財産合計	6,917,534,480	10,265,734	4,596,273,900	▲774,086,748	10,749,987,366

正味財産増減計算書 決算

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用収益			
特定資産受取利息	97,944,639	102,420,113	▲ 4,475,474
特定資産受取配当	136,450,000	136,450,000	0
② 受取会費			
受取会費	13,050,000	13,300,000	▲ 250,000
③ 観光文化振興事業収益(公益目的)			
観光文化振興事業収益	424,149,913	304,262,050	119,887,863
④ 調査研修事業収益(収益事業等)			
調査研修事業収益	19,584,123	24,997,899	▲ 5,413,776
⑤ 雑収益			
雑収益	2,842,268	4,582,314	▲ 1,740,046
経常収益計	694,020,943	586,012,376	108,008,567
(2) 経常費用			
① 観光文化振興事業費(公益目的)			
事業原価	264,151,134	232,661,369	31,489,765
人件費	289,065,809	284,837,211	4,228,598
事務費	7,357,941	7,248,795	109,146
施設費	46,852,289	53,658,141	▲ 6,805,852
諸雑費	8,758,461	7,839,387	919,074
② 調査研修事業費(収益事業等)			
事業原価	7,296,908	8,499,387	▲ 1,202,479
人件費	6,610,391	11,309,707	▲ 4,699,316
事務費	109,931	467,268	▲ 357,337
施設費	608,284	1,117,063	▲ 508,779
諸雑費	190,532	295,964	▲ 105,432
③ 管理費			
人件費	64,011,421	67,693,486	▲ 3,682,065
事務費	10,559,712	15,389,008	▲ 4,829,296
施設費	13,865,295	16,703,294	▲ 2,837,999
諸雑費	11,577,337	10,779,283	798,054
経常費用計	731,015,445	718,499,363	12,516,082
当期経常増減額	▲ 36,994,502	▲ 132,486,987	95,492,485
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	-	-	-
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	5,163	22,151	▲ 16,988
経常外費用計	5,163	22,151	▲ 16,988
当期経常外増減額	▲ 5,163	▲ 22,151	16,988
当期一般正味財産増減額	▲ 36,999,665	▲ 132,509,138	95,509,473
一般正味財産期首残高	10,422,438,372	10,554,947,510	▲ 132,509,138
一般正味財産期末残高	10,385,438,707	10,422,438,372	▲ 36,999,665
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	-	-	-
指定正味財産期首残高	30,000	30,000	-
指定正味財産期末残高	30,000	30,000	-
III 正味財産期末残高	10,385,468,707	10,422,468,372	▲ 36,999,665

正味財産増減計算書内訳表 決算

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引 消去	合計
	公1	収1			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 特定資産運用収益					
特定資産受取利息	48,381,654		49,562,985		97,944,639
特定資産受取配当	95,515,000		40,935,000		136,450,000
② 受取会費					
受取会費	6,525,000		6,525,000		13,050,000
③ 観光文化振興事業収益(公益目的)					
観光文化振興事業収益	424,149,913				424,149,913
④ 調査研修事業収益(収益事業等)					
調査研修事業収益		19,584,123			19,584,123
⑤ 雑収益					
雑収益	2,842,268				2,842,268
経常収益計	577,413,835	19,584,123	97,022,985		694,020,943
(2) 経常費用					
① 観光文化振興事業費(公益目的)					
事業原価	264,151,134				264,151,134
人件費	289,065,809				289,065,809
事務費	7,357,941				7,357,941
施設費	46,852,289				46,852,289
諸雑費	8,758,461				8,758,461
② 調査研修事業費(収益事業等)					
事業原価		7,296,908			7,296,908
人件費		6,610,391			6,610,391
事務費		109,931			109,931
施設費		608,284			608,284
諸雑費		190,532			190,532
③ 管理費					
人件費			64,011,421		64,011,421
事務費			10,559,712		10,559,712
施設費			13,865,295		13,865,295
諸雑費			11,577,337		11,577,337
経常費用計	616,185,634	14,816,046	100,013,765		731,015,445
当期経常増減額	▲38,771,799	4,768,077	▲2,990,780		▲36,994,502
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計					
(2) 経常外費用					
什器備品除却損	5,039	124			5,163
経常外費用計	5,039	124			5,163
当期経常外増減額	▲5,039	▲124			▲5,163
3. 他会計振替額		▲5,345,133	5,345,133		-
当期一般正味財産増減額	▲38,776,838	▲577,180	2,354,353		▲36,999,665
一般正味財産期首残高	6,109,413,779	9,858,696	4,303,165,897		10,422,438,372
一般正味財産期末残高	6,070,636,941	9,281,516	4,305,520,250		10,385,438,707
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額					
指定正味財産期首残高	30,000				30,000
指定正味財産期末残高	30,000				30,000
III 正味財産期末残高	6,070,666,941	9,281,516	4,305,520,250		10,385,468,707

キャッシュ・フロー計算書
(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 当期一般正味財産増減額	▲ 36,999,665	▲ 132,509,138	95,509,473
2. キャッシュ・フローへの調整額			
① 減価償却費	31,108,282	33,767,445	▲2,659,163
② 固定資産除却損	5,163	22,151	▲16,988
③ 退職給付等引当金額の増減額	26,264,280	▲ 23,633,690	49,897,970
④ 賞与引当金の増減額	▲ 2,771,800	141,700	▲2,913,500
⑤ 棚卸資産の増減額	41,148	17,441	23,707
⑥ 未収金の増減額	▲ 127,947,337	50,531,253	▲178,478,590
⑦ 未払金の増減額	▲ 7,517,231	18,228,848	▲25,746,079
⑧ 前渡金の増減額	10,705,623	14,850,930	▲4,145,307
⑨ 前払費用の増減額	597,751	▲ 404,651	1,002,402
⑩ 未収利息の増減額	▲ 454,090	1,422,682	▲1,876,772
⑪ 未払利息の増減額	160,439	▲ 141,097	301,536
⑫ 立替金の増減額	975	212,025	▲211,050
⑬ 預り金の増減額	44,327,382	1,286,704	43,040,678
⑭ その他非資金取引の増減額	▲ 189,427	▲189,934	507
⑮ 未払消費税等の増減額	12,315,100	▲ 13,366,800	25,681,900
⑯ 職員預り金増減額	971,876	1,183,949	▲212,073
小計	▲ 12,381,866	83,928,956	▲96,310,822
事業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 49,381,531	▲ 48,580,182	▲801,349
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 投資活動収入			
① 投資有価証券の償還(売却)による収入	700,000,000	1,000,000,000	▲300,000,000
② 差入保証金返還収入	151,000	46,000	105,000
③ 特定資産から現金預金への振替	28,468,264	—	28,468,264
投資活動収入計	728,619,264	1,000,046,000	▲271,426,736
2. 投資活動支出			
① 有形固定資産・無形固定資産取得支出	3,182,800	1,288,900	1,893,900
② 投資有価証券の取得による支出	700,000,000	900,000,000	▲200,000,000
③ 差入保証金への支出	—	66,000	▲66,000
④ 出資金(非資金取引)の増加額	187,667	267,521	▲79,854
⑤ 現金預金から特定資産への振替	—	53,781,229	▲53,781,229
投資活動支出計	703,370,467	955,403,650	▲252,033,183
投資活動によるキャッシュ・フロー	25,248,797	44,642,350	▲19,393,553
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	—	—	—
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	—	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
V 現金及び現金同等物の増減額	▲ 24,132,734	▲ 3,937,832	▲20,194,902
VI 現金及び現金同等物の期首残高	246,465,886	250,403,718	▲3,937,832
VII 現金及び現金同等物の期末残高	222,333,152	246,465,886	▲24,132,734

注) 1 資金の範囲……… 資金の範囲には、現金及び同等物を含めている。

2 重要な非資金取引……債券償却原価(アキュムレーション・アモチゼーション) 189,427円

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ・満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)によっております。
- ・関連会社株式……移動平均法による原価法によっております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ・貯蔵品……最終仕入原価法

(3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産……定率法を採用しております。ただし、建物並びに平成28年度4月1日以降に取得した建物付属設備および構築物については、定額法を採用しております。なお、取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

無形固定資産……定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しております。

・退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末に発生していると認められる額を計上しております。

なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づき計算しております。

・役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理については、税抜方式によっております。

3. 会計方針の変更

特にありません。

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次の通りであります。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
(基本財産)				
土 地	1,531,552,889円	— 円	— 円	1,531,552,889円
普通預金	447,111円	— 円	— 円	447,111円
基本財産合計	1,532,000,000円	— 円	— 円	1,532,000,000円
(特定資産)				
建 物	460,135,160円	— 円	9,721,163円	450,413,997円
構 築 物	30,234,426円	— 円	1,744,291円	28,490,135円
建物付属設備	74,354,558円	— 円	6,189,787円	68,164,771円
什 器 備 品	32,107,609円	1,524,000円	8,805,026円	24,826,583円
投資有価証券	2,301,726,186円	— 円	48,531円	2,301,677,655円
関連会社株式	682,250,000円	— 円	— 円	682,250,000円
普通預金	106,585,765円	9,769,694円	— 円	116,355,459円
小 計	3,687,393,704円	11,293,694円	26,508,798円	3,672,178,600円
(特定費用1:インバウンド復興)				
投資有価証券	300,000,000円	— 円	— 円	300,000,000円
普通預金	56,000,000円	— 円	16,000,000円	40,000,000円
小 計	356,000,000円	— 円	16,000,000円	340,000,000円
(特定費用2:震災後の観光復興・振興)				
投資有価証券	699,975,104円	9,958円	— 円	699,985,062円
普通預金	69,024,896円	— 円	22,009,958円	47,014,938円
小 計	769,000,000円	9,958円	22,009,958円	747,000,000円
(特定資産:資産取得資金)				
投資有価証券	200,000,000円	— 円	— 円	200,000,000円
普通預金	14,000,000円	— 円	— 円	14,000,000円
小 計	214,000,000円	— 円	— 円	214,000,000円
(特定資産:管理活動財産)				
投資有価証券	3,499,620,000円	228,000円	— 円	3,499,848,000円
普通預金	380,000円	— 円	228,000円	152,000円
小 計	3,500,000,000円	228,000円	228,000円	3,500,000,000円
特定資産合計	8,526,393,704円	11,531,652円	64,746,756円	8,473,178,600円

特定資産 科目内訳

建 物	460,135,160円	— 円	9,721,163円	450,413,997円
構 築 物	30,234,426円	— 円	1,744,291円	28,490,135円
建物付属設備	74,354,558円	— 円	6,189,787円	68,164,771円
什 器 備 品	32,107,609円	1,524,000円	8,805,026円	24,826,583円
投資有価証券	7,001,321,290円	237,958円	48,531円	7,001,510,717円
関連会社株式	682,250,000円	— 円	— 円	682,250,000円
普通預金	245,990,661円	9,769,694円	38,237,958円	217,522,397円
特定資産合計	8,526,393,704円	11,531,652円	64,746,756円	8,473,178,600円

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りであります。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
(基本財産)				
土 地	1,531,552,889円	－ 円	(1,531,552,889円)	－ 円
普通預金	447,111円	(30,000円)	(417,111円)	－ 円
基本財産合計	1,532,000,000円	30,000円	1,531,970,000円	－ 円
(特定資産)				
建 物	450,413,997円	－ 円	(450,413,997円)	－ 円
構 築 物	28,490,135円	－ 円	(28,490,135円)	－ 円
建物付属設備	68,164,771円	－ 円	(68,164,771円)	－ 円
什 器 備 品	24,826,583円	－ 円	(24,826,583円)	－ 円
投資有価証券	2,301,677,655円	－ 円	(2,301,677,655円)	－ 円
関連会社株式	682,250,000円	－ 円	(682,250,000円)	－ 円
普通預金	116,355,459円	－ 円	(116,355,459円)	－ 円
小 計	3,672,178,600円	－ 円	3,672,178,600円	－ 円
(特定費用1:インバウンド復興)				
投資有価証券	300,000,000円	－ 円	(300,000,000円)	－ 円
普通預金	40,000,000円	－ 円	(40,000,000円)	－ 円
小 計	340,000,000円	－ 円	340,000,000円	－ 円
(特定費用2:震災後の観光復興・振興)				
投資有価証券	699,985,062円	－ 円	(699,985,062円)	－ 円
普通預金	47,014,938円	－ 円	(47,014,938円)	－ 円
小 計	747,000,000円	－ 円	747,000,000円	－ 円
(特定資産:資産取得資金)				
投資有価証券	200,000,000円	－ 円	(200,000,000円)	－ 円
普通預金	14,000,000円	－ 円	(14,000,000円)	－ 円
小 計	214,000,000円	－ 円	214,000,000円	－ 円
(特定資産:管理活動財産)				
投資有価証券	3,499,848,000円	－ 円	(3,499,848,000円)	－ 円
普通預金	152,000円	－ 円	(152,000円)	－ 円
小 計	3,500,000,000円	－ 円	3,500,000,000円	－ 円
特定資産合計	8,473,178,600円	－ 円	8,473,178,600円	－ 円

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び期末残高は、次の通りであります。

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当 期 末 残 高
建 物	486,058,260円	35,644,263円	450,413,997円
構 築 物	34,885,867円	6,395,732円	28,490,135円
建 物 付 属 設 備	122,666,059円	30,564,097円	92,101,962円
什 器 備 品	103,117,603円	70,649,186円	32,468,417円
合 計	746,727,789円	143,253,278円	603,474,511円

7. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りであります。

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
公益目的保有財産 公社債	2,301,677,655円	2,345,559,000円	43,881,345円
特定資産(特定費用) 社債	999,985,062円	1,017,211,000円	17,225,938円
特定資産(資産取得) 社債	200,000,000円	187,570,000円	▲12,430,000円
特定資産(管理活動財産) 社債	3,499,848,000円	3,550,656,000円	50,808,000円
合 計	7,001,510,717円	7,100,996,000円	99,485,283円

8. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

(1) 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表とに掲載されている金額との関係は次の通りであります。

項 目	前期末	当期末
現金預金勘定	246,465,886円	222,333,152円
現金及び現金同等物	246,465,886円	222,333,152円

(2) 重要な非資金取引は次の通りであります。

項 目	前期末	当期末
債券償却原価による アキュムレーション	349,494円	348,987円
債券償却原価による アモチゼーション	159,560円	159,560円

アキュムレーション・・・額面と取得額の差益を残存年数で毎年均等に収益計上すること

アモチゼーション・・・額面と取得額の差損を残存年数で毎年均等に収益減算すること

9. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度(一部企業年金制度)を採用しております。

(2) 退職給付債務及びその内訳

①退職給付債務	91,591,960円
②会計基準変更時差異の未処理額	—
合計(①+②)	91,591,960円

(3) 退職給付費用に関する事項

①勤務費用	11,149,280円
②会計基準変更時差異の費用処理額	—
合計(①+②)	11,149,280円

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算しております。

10. 重要な後発事象

該当事項はありません。

11. その他

該当事項はありません。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記『2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高』、『3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳』に記載しておりますので、附属明細書の記載は省略しております。

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	28,408,900円	25,637,100円	28,408,900円		25,637,100円
退職給付引当金	80,442,680円	11,149,280円	— 円		91,591,960円
役員退職慰労引当金	33,960,850円	15,115,000円	— 円		49,075,850円
合計	142,812,430円	51,901,380円	28,408,900円	—	166,304,910円

財 産 目 録

(2020年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手許保管	運転資金として(共用資産)	420,534
普通預金	みずほ銀行 大手町営業部	運転資金として(共用資産)	221,912,618
未収金	公益目的事業 収益事業等	受託・公益目的事業の未収分 受託・収益事業の未収分	346,665,074 2,932,505
未収利息	債券未収利息	満期保有債券未収利息合計	20,370,327
貯蔵品	公益目的事業	頒布用の編著書籍の在庫	408,960
前渡金	公益目的事業	翌期事業の前払い分	45,475,901
前払費用	次年度通勤費等	次年度通勤費等	2,887,440
立替金	JTB健康保険組合	2次検査費用	11,025
流動資産合計			641,084,384
(固定資産)			
基本財産			
土地	港区南青山2-7-29	公益目的事業のための事務所ビル用地	1,531,552,889
普通預金	みずほ銀行 大手町営業部	受取利息を公益目的事業に充当	447,111
基本財産合計			1,532,000,000
特定資産			
建物	港区南青山2-7-29	公益目的事業使用のため(事務所ビル)	450,413,997
構築物	港区南青山2-7-29	公益目的事業使用のため(事務所ビル)	28,490,135
建物付属設備	内部造作一式	公益目的事業使用のため(事務所ビル)	68,164,771
什器備品	器具備品類一式	公益目的事業使用のため	24,826,583
投資有価証券			
公益目的保有財産	公益目的事業財産	受取利息を公益目的事業に充当	2,301,677,655
特定費用準備資金	公益目的事業財産	受取利息を公益目的事業に充当	999,985,062
資産取得資金	公益目的事業財産	受取利息を公益目的事業に充当	200,000,000
管理活動財産	法人会計財産	受取利息を法人会計に充当	3,499,848,000
関連会社株式	株式会社JTB 株式 1,364,500株	配当金を公益目的事業に充当	682,250,000
普通預金			
公益目的保有財産	公益目的事業財産	特定資産を普通預金で保有	116,355,459
特定費用準備資金	公益目的事業財産	特定資産を普通預金で保有	87,014,938
資産取得資金	公益目的事業財産	特定資産を普通預金で保有	14,000,000
管理活動財産	法人会計財産	特定資産を普通預金で保有	152,000
特定資産合計			8,473,178,600

財 産 目 録

(2020年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定資産	建物付属設備	内部造作一式	業務使用のため 23,937,191
	什器備品	器具備品類一式	業務使用のため 7,641,834
	商標権	登録番号5688974号	財団ロゴマーク 653,735
	差入保証金	日観興業株式会社	茨城ゴルフ倶楽部会員権保証金 8,757,143
	出資金	JTB共済組合	共済基本金、住宅会計、遺児奨学会会計 (共用資産) 62,734,479
	その他固定資産合計		
固定資産合計			10,108,902,982
資産合計			10,749,987,366
(流動負債)	未払金	公益目的事業 収益事業等 法人会計	受託・公益目的事業の未払分 受託・収益事業の未払分 一般経費の未払分 72,780,791 984,218 4,063,900
	預り金	法人会計	源泉徴収諸税金・社会保険料他 雇用保険料 48,969,526 39,698
	未払利息	職員に対するもの	職員預り金利子 (共用負債) 471,737
	賞与引当金	職員に対するもの	職員30名に対する夏期賞与の引当 (共用負債) 25,637,100
	未払法人税等	税金	都税均等割 70,000
	未払消費税等	税金	消費税 12,607,600
流動負債合計			165,624,570
(固定負債)	職員預り金	職員に対するもの	職員預り金(社内預金)として (共用負債) 58,226,279
	退職給付引当金	職員に対するもの	期末時の全職員分退職手当必要額 (共用負債) 91,591,960
	役員退職慰労引当金	役員に対するもの	期末時の全役員分退任慰労金必要額 (共用負債) 49,075,850
固定負債合計			198,894,089
負債合計			364,518,659
正味財産			10,385,468,707
負債及び正味財産合計			10,749,987,366

独立監査人の監査報告書

2020年（令和2年）5月14日

公益財団法人日本交通公社

理事会 御中

黒田公認会計士事務所
東京都中央区

公認会計士 黒田浩之 ⑩

<財務諸表監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じて、公益財団法人日本交通公社の2019年（平成31年）4月1日から2020年（令和2年）3月31日までの第78期事業年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）、キャッシュ・フロー計算書及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）及びキャッシュ・フローの状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する理事者の責任及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成する事が適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告のプロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表の意見を表明する事にある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じて、公益財団法人日本交通公社の2019年（平成31年）4月1日から2020年（令和2年）3月31日までの第78期事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。


以 上


監査報告書

公益財団法人日本交通公社
会長 末永 安生 殿

2020年5月 1 日

公益財団法人日本交通公社

監事 川島 敏男 

監事 栗原 茂夫 

私たち監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事、その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況等を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにその附属明細書並びにキャッシュ・フロー計算書並びに財務諸表に対する注記（以下「財務諸表」という））、及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 財務諸表及び財産目録は、法人の財務及び財産の状況、正味財産の増減並びにキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上